



大学制度ノ改正ト獨創的研究ノ獎勵(2)

内田, 銀藏

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 19(6):887-913

(Issue Date)

1915-12

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052445>



經濟學
商業學

國民經濟雜誌

第十九卷 第六號

(大正四年
十二月一日發行)

論說

大學制度ノ改正ト獨創的研究ノ獎勵 (其二)

京都文科大學教授

文學博士 內田 銀藏

目次

- | | |
|-----------------|------|
| 六、大學ノ修業年限 | 九、稱號 |
| 七、大學ト下級學校トノ連絡關係 | 十、結論 |
| 八、研究科及研究設備 | |

第六 大學ノ修業年限

現今、本邦學生ノ在學修業年限ヲ論ズルニ當リ、之ヲ歐米諸國ノ場合ト比較スル

第十九卷 (八八七) 論說 大學制度ノ改正ト獨創的研究ノ獎勵

第六號

モノハ多ケレドモ、我邦維新前ノ有様ト對照シテ考フルモノハ少シ。子輩ヲ以テ之ヲ見レバ、此ノ場合ニ於テモ比較的、研究ト歴史、的沿革、的研究トハ共ニ必要ニシテ、マタ共ニ興味アルヲ覺ユ。維新前ニ比スレバ、今日ニ在リテハ時勢ノ變遷、教育制度ノ變化、其ノ他種々ノ原因ヨリシテ、中流以上ノ家ノ子弟ガ一人前ニナル年齡ハ餘程遅クナレルガ如シ。是レハ一ニハ學習スベキ事柄複雑多端トナリシニモヨルベケレドモ、若シ今日ニ在リテモ一般ニ中流以上ノ家ノ子弟ガ學成リテ一人前ニナル年齡ヲ今少シ早クスルコトヲ得バ、其ノ本人及父兄ノ幸福ハ固ヨリ、國家及社會モ之ニ由ツテ利益スル所莫大ナルベシ。

教育及修養ノ時期ガ、人ノ一生ノ中ニテ如何バカリヲ占ムルヲ適當トスベキカト云フコトハ、人生論上極メテ重要ナル問題ナルガ、此ノ教育及修養期ノ長サハ一般ニハ生理的、心理的發達ノ上ヨリシテ、人生ニハ、自カラ少壯老ノ三大時期アリ、修養ノ時期、活動ノ時期、隱逸ノ時期アルコトニヨツテ要約セラル、モノナリ。然レドモ一々ノ特別ナル邦國及時代ニ就キテ其ノ時期ノ適當ナル長サヲ論ズルニ當リテハ、其ノ國、其ノ時代ノ社會狀態、經濟ノ有様竝ニ文化ノ程度等種々ナル事情ヲ顧

慮スルヲ要シ、同一ノ邦國及時代ニ在リテモ、一々ノ個人ニ就キテハ、其ノ資質境遇
ソレトシテ、同ジカラザルモノアルヲ以テ、總テ一律ニ之ヲ定ムベキニハ非ルナリ。但
シ之ヲ概論スルニ教育ノ時期ハ準備ノ時期タリ、サレバ生理上心理上既ニ充分ナ
ル發達ヲ遂ゲ、社會ニ活動シ得ル年齡ニ達スル上ハ、特別ナル個人ヲ除キ、大多數ハ
速ニ活動期ニ入ルヲ至當トス。又教育時期ノ長短ハ經濟上ヨリモ考察スルコト甚
ダ肝要ナリ。高等教育ヲ受クルモノハ貴族富豪ノ子弟、又ハ中産以下ノ家ノ子弟モ
少カラザルベシト雖モ、先ヅ其ノ大多數ハ中産階級ノ子弟ナルベシ。然ルニ今日ニ
於テハ子女ノ教育費頗ル多キヲ要シ、子女ヲシテ長年月ノ間在學セシメ、其ノ學資
ヲ支出スルコトハ中産ノ家ニトリテハ頗ル重キ負擔タリ。故ニ成ルベク短年月ノ
間ニ於テ望ミノ如キ教育ノ目的ヲ達シ、女子ヲシテ獨立自營スルヲ得ルニ至ラシ
メンコトハ中産階級ニ關スル社會政策ノ見地ヨリスルモ亦甚ダ願ハシキコトナ
リトス。

以上ノ如キ理由ニヨリ、單ニ大學教育ヲ受クルモノ、ミニ限ラズ、專門學校ニ入
ル者ナドニ就キテモ、若シ教育制度ノ革新、教員ノ精選、設備ノ充實及教授方法ノ改

善等ニヨリ、同一ノ教育若シタハ今ヨリモ一層效果アル教育ヲ、今ヨリモ一層短キ年月ノ間ニ終了スルヲ得バ、ソハ本人及父兄ノ幸福タルベキノミナラズ、マタ國家及社會ノ爲メニモ頗ル利益トナルベキナリ。

右ニ述ベタル如キ見地ヨリシテ、年限短縮ヲ望マントスル議論ハ、固ヨリ大學入學者ノ場合ニ當テ嵌マルベシ否他ノ學校ヨリモ一層長年期ヲ要スル大學入學者ノ場合ニハ特ニ能ク當テ嵌マルベキナリ。然レドモ大學ノ場合ニ於テハマタ別ニ顧慮セザルベカラザル特別ノ事情アリ、然ルニ今日大學ノ修業年限ヲ論ズル人士ハ、ソレ等ノ特別ノ事情ヲ充分顧慮セザルモノ、如シ。

蓋シ世ノ論者ハ、多クハ法科大學ノミヲ眼中ニ置キテ說ヲ爲シ、醫科、工科等他ノ諸分科ノコトヲ殆ンド度外ニ措クノ風アリ。彼等ハマタ大學ノ卒業生ハ、學者トナリテ終生學術ノ研究ニ從事スルモノヲ除キ、其ノ他ハ皆普通ノ行政官吏又ハ銀行會社等ノ使用人トナルモノト速斷セルニハ非ズヤト疑ハル。彼等ハ國家及社會ガ學者及行政官、銀行員、會社員等ノ外ニ深遠ナル専門的知識及技能ヲ有スル實際家即チ優秀ナル技倆ヲ有スル醫師、技師、裁判官、辯護士等ヲ要スルコトヲ充分認識セ

ザルニ似タリ、是等ノ専門家中、最高級ノモノトナルニハ、専門的職業的教育ヲ充分ニ受クル必要アルノミナラズ、之ニ先キ、ダチテ、マタ、充分ナル基礎的豫備的教育ヲ受クルコトヲ必要トス、此ノ如キ最高級ノ専門家を養成スル爲ニハ、修業年限稍々長キヲ要スルモ亦已ムヲ得ザルナリ。

或ハ大學ノ本科(卒業前ノ課程)ハ、一般ニ其ノ程度ヲ低クシ、其ノ上ノ研究ハ所謂大學院若シクハ研究科(卒業後ノ課程)ニテ爲サシムベシト唱フルモノアルガ如シトモ、雖予輩ハ遽カニ之ニ賛同スルコト能ハズ、所謂本科、即チ卒業前ノ課程ハ、主トシテ専門的職業的教育ヲ授クル大學ニ於テハ、ソレ丈ケニテ一通リ斯道ノ専門家タルニ必要ナル教育ヲ完了スルモノナラザルベカラズ、大學院若シクハ研究科(卒業後ノ課程)ハ、宜シク既ニ一通リ出來上リタル人物ヲシテ、更ニ特別ノ研究ヲ爲サシムル所タルベク、本科(卒業前ノ課程)トハ頗ル其ノ性質ヲ異ニスルモノタラザルベカラザルナリ。然ラバ則チ研究科ノ設ケアレバトテ、本科ノ學修程度一般ニ低クシテ、宜シト云フ理由アルコトナシ。若シ強イテ本科ノ程度ヲ低クシ爲メニソレダケニテハ、社會ニ出デ専門家トシテ充分役ニ立タヌ様ナラバ、勢ヒ研究科ハ一種ノ

高等科補修科ノ如キモノトナリ、其ノ結果實際ニ於テ年限延長トナリ、大ニ豫期ニ反スルニ至ルベシ。

サレバ大學ノ場合ニ於テハ、若シ年限ヲ短縮シテ大學教育ノ目的ヲ充分ニ達シ得ルニ於テハ、年限短縮固ヨリ可ナリトモ、雖若シ短縮ノ爲メ程度著シク低下シ、教育ノ結果甚ダ不良トナリ、國家及社會ガ大學ニ期待スル如キ高等ノ品格及能力ヲ有スル人物ヲ養成スル能ハザルニ至ラバ、年限短縮ハ寧ロ不可ナリト云ハザルベカラザルナリ。

管見ニテハ、今ノ帝國大學ヲ改造シテ、單ニ一種ノ大學院タラシムルコトハ、更ニ其ノ必要アルコトナシ、帝國大學ハ依然トシテ、今日ノ如ク學術研究ノ場所タルト共ニ、最も高等ナル職業的専門的教育ヲ施ス場所トシ、若シ出來得ベクシバ、自由學生ノ制ヲ設ケテ兼テ紳士教育ヲモ授クルコト、スベキナリ。其ノ本科予ハ本科ト云フ語ヲ豫科ヲ含マザルモノトシテ使用スノ程度ハ、今日ヨリモ低下スベカラズ、從ツテ其ノ修業年限ハ現在ノ如ク三年乃至四年ヲ要スベク、ソレヨリ短クスルコトハ難カルベシ。

新設ノ私公立大學ノ如キハ、帝國大學ヨリハ、稍々低キ程度ニ於テ職業的専門的

教育ヲ授クルモ亦可ナラン、然レドモ其ノ程度ハ專門學校以上タルコトヲ要スベシ。而シテ新設ノ公私立大學ニシテ、若シ大學教育ノ名ニ背カザルモノヲ三年以内ニテ授ケ得ル確信アラバ、兎ニ角之ヲ試ミルモ亦可ナラン、然レドモソレハ恐ラク不可能ナルベシ。サレバ結局大學ノ本科修業年限ハ現制ヨリモ一層短縮スルコトハ望ムベカラズ、問題ハ一ニ豫科ヲ置クヲ要スルヤ否、又豫科ヲ置クトスレバ、其ノ年限ハ何年ナルヲ要スルカト云フコトニ歸着スルナリ。

予輩ハ主トシテ職業的專門的教育ヲ施ス大學ニ在リテハ豫科ヲ要スト思考ス而シテ其年限ハ三年ヲ以テ適當ト認ムルナリ。大學ニ豫科ヲ附設シ、速成主義ヲ採ル場合ニハ二年ニテモ出來ルカモ知レザレドモ、少シク無理ナルベシ。又最高級ノ大學ニアリテハ、妄リニ速成主義ヲ採ラズ、豫備教育ヲ充分ニスル方得策ナリトス。帝國大學ノ如キハ、現制ノ下ニ在リテモ、入學生ノ豫備教育不充分ナルヲ患フル程ナレバ、今其ノ豫備教育ノ年限ヲ短縮スルトキハ、結果甚ダ面白カラザルベシ。帝國大學ニ就キテハ、今日ノ急務ハ豫科ノ廢止、又ハ短縮ニハ非ズシテ、其ノ改善ニ在リトス。但シ新設ノ公私立大學ノ如キ若シ帝國大學ヨリハ稍々程度ヲ低クスルモ可

ナリトノ主義ヲ採リ、又ハ豫科二年ニテモ、相當ノ成績ヲ舉グルヲ得ベシトノ見込ヲ有スルナラバ、別ニソレヲ試ミルモ亦可ナリ。而シテ専ラ修養ヲ主トスル別種ノ新大學ヲ設クル場合ニ於テハ、豫科一年、本科三年、合セテ四箇年トシ、又ハ豫科ヲ置カズ、單ニ本科四年トスルモ亦不可ナカルベシ。此ノ點ニ於テハ強イテ總テノ大學ヲ劃一ナラシメズ、種々ノ試ミヲ爲ス自由ヲ與フルヲ可トス。而シテスベテノ大學ヲ本科豫科ヲ通ジテ六年、又ハ七年ト劃一ニ規定スルニ及バザルト同時ニ、マタ之ヲ悉ク、劃一ニ四年、又ハ五年ニ短縮セシメントスルガ如キハ甚ダ理由ナキコトハ云ハザルヲ得ザルナリ。

第七 大學ト下級學校トノ連絡關係

大學ハ直チニ中學校ト連絡スベキヤ、又ハ二者ノ中間ニ現制ノ如ク高等學校ヲ置クベキヤ、是レ世間頗ル議論ノアル所ナリ。或ハ大學ニ豫科ヲ置カズ、中學校ノ修業年限ヲ延長シ、其ノ卒業生ヲ直チニ大學ノ本科ニ入學セシムベシトノ意見ヲ有セル人士モアリシガ如シ。

然レドモ予輩ヲ以テ之ヲ見レバ、中學校ノ年限延長ハ、斷ジテ不可ナリトス。中學校ノ年限ハ寧ロ短縮ヲ計ルベシ、決シテ延長スベカラザルナリ。是レニハ種々ノ理由アルコトナレドモ、ソレヲ述ブルトキハ、頗ル長クナルヲ以テ、今之ヲ略ス。

故ニ實際ニ於テ大學ト下級學校トノ連絡關係ノ問題ハ、高等學校ヲ存置スベキカ、又ハ之ヲ廢シテ豫科ヲ各大學ニ附設スベキカト云フ點ニ歸着ス。予輩ハ曾テ雜誌『教育學術界』ニ掲ゲタル論文ニ於テハ、豫科ヲ各大學ニ附設スベキコトヲ主張シタルモノニシテ、今日ニ於テモ理論上一般ニ云ヘバ其ノ方宜シカルベシト思考スル者ナリ。然レドモ本邦ノ學制ニ於テ大學豫備門ノ廢セラレタルハ既ニ久シキ以前ノコトニシテ、高等中學校及其ノ改稱タル高等學校ハ最早其ノ創設以來可成リ長キ年月ヲ經過シ、多クハ特別ナル校風ヲ作レルモノナリ。而シテ其ハ過去ノ成績ハ概シテ良好ナリトス。我が高等學校ハ人物ノ養成、性格ノ陶冶ニ於テ中學校ヨリモ寧ロ好成績ヲ舉ゲ來レルヲ認ム。高等學校ハ決シテ無用ノ贅物ニテハ非リシナリ。然ルニ今遽カニ總テノ高等學校ヲ廢シテ、各大學ニ豫科ヲ附設スルモ其ノ教育特ニ性格陶冶ノ點ニ於テ、現狀以上ノ好結果ヲ得ベキヤ、容易ニ斷言スル能ハザル

モノアルナリ。故ニ高等學校ノ廢止ハ實際問題トシテハ、輕々ニ決行スベキモノニ非ズト思考ス。但シ高等學校ト帝國大學トノ間ニ於ケル内部ノ連絡ヲ今ヨリモ一層親密ニシ、又高等學校ノ課程及教授法ノ改善ヲ計ルコトハ、今日ノ急務ナルベシ。

尤モ同ジク帝國大學トイフト雖モ、東京及京都ノ如ク、創設以來割合ニ年所ヲ經タルモノト、東北及九州ノ如ク、今尙ホ創設期ニアルモノトハ事情必ラズシモ同ジカラズ、又札幌ノ東北農科大學ノ如キハ從來特別ノ歴史ヲ有セルコトナレバ、スベテヲ一律ニ論ズベキニハ非ルナリ。東北帝國大學ノ如キハ、或ハ理科、醫科等志望者ノ爲メニモ、豫科ヲ附設シテ好結果ヲ舉ゲ得ルヤモ知ルベカラズ。又從來何等ノ歴史モナキ新設ノ公私立大學ノ如キハ、寧ロ始メヨリソレハ豫科ヲ置キ、其ノ大學ノ目的ニ適フ様特別ナル豫備教育ヲ施スニ若カザルベキナリ。

右述ブルガ如クナルヲ以テ、予輩ハ此ノ下級學校トノ連絡關係ニ於テモ、強イテスベテヲ劃一ナラシメズ。或ル大學ノ爲メニハ暫ク高等學校ヲ存置シ、他ノ大學ニ在リテハ該大學ニ豫科ヲ附設スルヲ許スコト、極メテ穩當ナルベシト思考スルナリ。

附記 菊池男爵ハ所謂學藝大學ヲ以テ一方ニハソレ丈ケニテ一通リ出來上

リタル人物ヲ作リ上グル所タラシムルト同時ニ、他方ニ於テハマタ之ヲ以テ専門的職業的教育ヲ授クル大學ノ豫備學校タラシメント企圖セラル、モノ、如シ、學藝大學ノ趣旨ハ、大體ニ於テ同感ナレドモ、本邦現今ノ狀態ニ於テ學藝大學ヲ設立シ之ヲシテ同時ニ二ツノ目的ヲ兼テシムルトキハ、恐ラクハ其ノ結果豫期ノ如クナル能ハザルベク、其ノ場合ニハ學藝大學ハ自然豫備門的性質ヲ多ク具有スルニ至リ、其ノ主ナル目的タル修養教育ヲ充分ニ授クル能ハザルニ至ル懸念アリ。故ニ主トシテ専門的職業的教育ヲ與フル大學ノ爲メノ豫科ハ別ニ之ヲ置キ、所謂學藝大學ハ之ヲ以テ專ラ紳士教育ノ爲メノ大學トスルニ若カズト思考ス。又カ、ル大學ハ卒業後職ヲ求メ、銀行會社ナドノ使用人タルベキモノヲ養成スルコトヲ目的トシテハ、其ノ成績果シテイカバアルベキヤ、頗ブル疑ナキ能ハズ。寧ロ主トシテ餘裕アル階級貴族富豪等ノ子弟又ハ父祖ノ業ヲ繼ギ、若シクハ獨立ニ事業ヲ經營セント欲スルモノナドヲ入學セシムルニ若カザルベキナリ。

第八 研究科及研究設備

如何ナル大學モ或ル程度ノ研究設備ヲ要ス。蓋シ大學ハ通例單純ナル研究所ニ非ズト雖モ、研究ハ大學ノ一ノ主要ナル任務ニシテ、其ノ必須條件ノ一ナリ。又大學的教育ハ研究ノ空氣ノ中ニ於テ始メテ能ク行ハル、コトヲ得ベシ。故ニ相當ノ研究設備ナキ學校ハ之ヲ大學ト稱スルニ足ラザルナリ。

研究科ハ前ニモ述ベタル如ク既ニ本科ヲ卒業シ一通リ出來上リタル人物ヲシテ、更ニ特殊問題ヲ深ク研究シ、該事項ニ就キ業績ヲ舉グルト同時ニ研究ノ方法ヲ自得セシメ、以テ將來獨立ノ研究家タルベキモノヲ養成スル所タルベシ。現時ニ日本ニ於テハ獨創的研究ノ發達ヲ獎勵スル爲メ大學ニ於テ將來獨立ノ研究家タルベキ人士ヲ養成スルコトニ大ニ努力スル必要アリ。然ルニ此ノ養成ハ本科ダケニテハ充分ニ其ノ目的ヲ達スル能ハザルベキヲ以テ、各大學ニ研究科ノ設アラシムト甚ダ望マシトス。新大學令案ハ他ノ點ニ於テハ非劃一主義ヲ採レルモ、此ノ點ニ限リ劃一主義ヲ採レルハ亦頗ル其ノ理由アリ。其ノ趣旨ハ予輩ノ甚ダ賛成スル所ナリ。

世間或ハ各大學ニ悉ク研究科ヲ置クニハ及ブマジト思惟シ、又各大學ニ於テ完備セル研究設備ヲ爲シ、研究科ヲ置クコトハ、其ノ費用ニ堪ヘザルベシトシ、寧ロ研究科ハ帝國大學ニノミ之ヲ置キ、他ノ公私立大學ノ本科卒業生ニシテ進ンデ研究ニ從事セント欲スルモノハ、帝國大學ノ研究科ニ入學セバ可ナラン、カク集中スル方經濟的ナルベシト考フルモノモアルガ如シ。帝國大學ノ立場ヨリスレバ、ソレニテモ或ハ宜シキヤモ知レザレドモ、公私立大學ヲシテ、眞ニ大學ラシカラシメ、又日本ニ於テ獨創的研究ヲ盛ニシ、本邦ノ學問ヲシテ外國ト充分對立スルヲ得ルニ至ラシメント欲セバ、官、公、私立ヲ問ハズ、成ルベク總テノ大學ニ研究科ヲ置キ、各大學ノ研究科、ソレハ特色ヲ具ヘ、ソレハ異彩アル研究家ヲ養成シ、又ソレハ競ウテ立派ナル業績ヲ出サント務ムル様ニスルニ若カザルナリ。若シ公私立大學ニシテ充分ナル研究設備ナク、適當ナル研究科ナキニ於テハ、該大學ノ卒業者ハ、母校ニ於テ研究ヲ繼續スルコト能ハズ、從ツテ該大學ハ其ノ學術界ニ於ケル位置、帝國大學ニ比シ、一段低キモノトナリ、帝國大學ニ對シ附隨的ノ性質ヲ帶ブルヲ免レザルベシ。

研究設備ノ充實、及研究科ノ設置ハ、其ノ大學ノ空氣ヲシテ一般ニ研究的ナラシメ、本科在學者ヲシテ研究的氣分ヲ味ハシムル上ニ於テモ亦甚ダ望マシキコトナルベシ。大學ニ於ケル教育ハ決シテ單ニ普通ノ講義ナドノミニテ充分ニ其ノ目的ヲ達シ得ベキニ非ズ、大學内ニ於テ獨創的研究絶エズ行ハレ、又教授職員ト共ニ專ラ研究ニ從事スル少壯ノ學者アリテ、コハニ始メテ大學的ノ氣風充分ニ養成セラレ、其ノ感化ハ知ラズ識ラズノ中ニ卒業前ノ學生ニ及ビ、彼等ノ研究心及研究能力ヲ涵養シ、彼等ヲシテ「大學ノ人」タラシメ、大學教育ヲ受ケザルモノトハ、著シキ區別アルニ至ラシムルナリ。現今本邦ニ於テ大學殊ニ法科大學卒業生ノ多クガ研究心ニ乏シク、研究的能力充分ナラズ、實務ニ當リテモ獨創ノ工夫ヲ爲ス技術ニ乏シキヤノ非難アルハ、其ノ原因一ニシテ止マラザルベシト雖研究室等ノ設備未ダ充分ナラズ、大學院若シクハ研究科ノ仕組未ダ能ク整備シ居ラザルコト亦其ノ一大原因タラズンバアラズ。故ニ單ニ研究ノ發達ノ爲メノミナラズ、大學教育ノ目的ヲ充分ニ達スル上ニ於テモ研究的設備ノ充實及研究科ノ設置ハ甚ダ必要ナリトス。

若シ夫レ廣キ修養ヲ與フルコトヲ主トシ、専門家ノ養成ヲ目的トセザル特種ノ

大學ニアリテハ、其ノ本科卒業生ハ、未ダ直チニ高等ナル特殊研究ヲ遂行スルニ必要ナル素養ヲ有セザルベク、從ツテカ、ル大學ニハ別ニ研究科ヲ置クニ及バザルガ如シト雖モ、予輩ヲ以テ之ヲ見レバ、此ノ種ノ大學ニアリテモ、特種ノ研究科ヲ置クニ若カズト思考ス。尤モ其ノ研究科ハ、深キ研究ヲ爲サシメンコトヲ目的トセズ、タゞ或ル特別ノ方面ニ關スル事項ヲ自修的ニ研究セシメ、以テ研究心及研究能力ヲ養成スルコトヲ主トスベシカ、ル大學ノ卒業生モ其ノ將來向ハントスル方面ノ如何ニヨリ或ル特別問題ノ補修ヲ必要トスルモノアルベシ又前述ノ理由ニヨリ該大學ニ大學的氣分ヲ帶ビシメンガ爲メ、兎ニ角或ル程度ノ研究設備或ル種類ノ研究科ノ存在ハ、甚ダ望マシカルベク、若シ之ヲ闕クトキハカ、ル大學ハ恐ラクハ、實際ニ於テ大學的ノ性質ヲ具有セザルモノニナリ終ラン。

研究科ノ制度ハスベテ一律ナルヲ要セズ、寧ロ各大學ニ於テソレトモ特色ヲ存スルヲ可トス。漫ニ煩瑣ノ規定ヲ設ケ、之ヲ拘束スルハ不可ナリ。又單ニ形式的ニ研究科ヲ置キ、體面ヲ裝フトモ、ソレダケニテハ餘リ實益ナカルベキナリ。研究科ノ成績舉ガルト否トハ設備ノ如何ニモヨルベケレドモ、ソレヨリモ特ニ大切ナルハ指

導者其ノ人ヲ得ルヤ否ニアリトス。遣リ方ニヨリテハ、必ラズシモ始メヨリ廣大ナル建物ヲ要セズ、又必ラズシモ多額ノ費用ヲ要セズシテ、能ク研究科ヲ置キ相應ノ成績ヲ舉グルコトヲ得ベシ。

第九 稱 號

新大學令案ニ於テハ、從來學位ナリシ博士號ヲ學士號ト同ジク稱號トシ、是迄文部大臣ガ授與シタルモノヲ官公私立大學ヲシテ授與セシメントスルモノ、如シ、我ガ學位ノ制ハ、一種特別ノモノニシテ、制定以來既ニ頗ル年所ヲ經歷史モアルコトナレバ、今遽カニ之ヲ廢スルハ不可ナリトノ論モアルコトナレドモ、官公私立大學ニ何レモ博士論文審査ノ權ヲ與フルニ於テハ、審査ノ標準如何ニシテモ全ク同一ナルコトヲ期スベキニ非ズ、然ラバ官公私立大學ガソレトノ見込ニテ決シタルモノヲスベテ一樣ニ見倣シ之ニ基キテ文部大臣ヨリ博士號ヲ授與センヨリモ、寧ロ之ヲ一ノ稱號トシ、其ノ審査ヲ爲シタル當該大學ヲシテ之ヲ授ケシムルニ若カザルナリ。

或ハカクスルトキハ、公私立大學ノ如キ稱號濫授ノ弊アルベク、博士號ニ對スル世間ノ信用、今日ノ如クナル能ハザルベシト難ズルモノモアラン。其ノ懸念モサルコトナガラ、各大學ニテ博士號ヲ授クルトキハ、單ニ某々博士ト稱スルモ、世人必ラズ何大學ニテ博士號ヲ得タルカヲ考フルニ至ルベク、濫授ノ嫌アル大學ノ博士號ハ世人一向之ヲ珍重セズ、之ニ反シ審査嚴密ナル大學ノ稱號ハ一般ニ之ヲ尊重スルニ至ルベシ。其ノ結果、濫授ヲ敢テスル大學ハ輕蔑セラル、ヲ以テ、自然之ヲ慎ムニ至ルベク、其ノ弊ハサシテ患フルニハ及バザルベキナリ。

現今實際ノ狀態ヲ見ルニ、少壯ノ學者ニシテ相當ノ研究ヲ爲シタルモノト雖モ、博士號ヲ得ルコトハ、頗ル難シ。他ノ一方ニ於テ一般世人ノ博士號ヲ尊重スルコト甚シキニ過ギ、一タビ之ヲ得タルモノハ、其ノ實力ノ程度如何ニ關セズ、又其ノ後ノ進境ノ有無如何ヲ問ハズ、單ニ學位ヲ有スルノ故ヲ以テ特別扱ヒヲ受クルガ如シ。是レ學問ノ發達進歩ヲ促進シ、獨創的研究ヲ獎勵スル所以ナリヤ、甚ダ疑ナキ能ハズ。管見ニテハ今少シ博士號ノ受領ヲ容易ナラシメ、大學本科ニ於テ専門學科履修卒業ノ後、更ニ研究科ニ入り、數年間或ル特殊研究ニ從事シ、何等カ見ルベキ業績ヲ

提出シタルモノニハ、皆博士ノ稱號ヲ與フルニ若カズト思ハル、ナリ。餘リヤカマシク、ムヅカシクテ、中々之ヲ得ル望ナキ場合ニハ、研究者ヲ鼓舞獎勵スル代リニ、之ヲシテ失望落膽セシメ、或ハ自暴自棄ニ陥リ、或ハ意氣沮喪シテ、研究ヲ中止シ、又ハ他ニ方向ヲ轉ズルニ至ラシムル等ノコトアルベキナリ、カク博士論文審査ノ標準ヲ寬大ニスルトキハ、博士號ノ受領ハ單ニ或ル特殊事項ニ關シ、或ル特別ノ研究ヲ爲シ、或ル業績ヲ舉ゲタリトイフコトヲ表シ、換言スレバ獨立ノ研究家ノ仲間入りヲシタルコトヲ示スニ止マルベク、從ツテ世人ハ今日ノ如ク博士號ヲ有スルモノニ對シ辨別ナキ尊敬ヲ拂フコトナキニ至ルベシ。茲ニ於テ乎、研究家モ一タビ博士ノ稱號ヲ得タレバトテソレニテ最早足レリトシ、氣弛ミヲ生ズルガ如キコトナク、其ノ後モ益々實力ヲ養ヒ、引續キ研究ヲ繼續シ、盛ニ業績ヲ出スニ至ラン。故ニ博士號授與ノ標準ヲ今ヨリ少シク寬大ニスルハ、畢竟獨創的研究ヲ獎勵スコト、ナルベキナリ。

以上ノ理由ニヨリ予輩ハ新大學令案ニ於テ博士論文提出者ハ研究科在學三箇年以上トシ、五箇年以上ナド、セズ、以テ俊才ノ士ハ割合ニ早ク博士號ヲ受領スル

コトヲ得セシムニ對シ、至極賛成ヲ表スルモノナリ。其ノ後教育調査會ノ特別委員會ニ於テハ、此ノ原案ニ對シ修正ヲ加ヘタルヤニ聞ケ。是レ予輩ノ甚ダ了解ニ苦ム所ナリ。

新大學令案ニ據レバ、學士ノ稱號ハ官公私立大學何レモ之ヲ授與スル權能アルコト、ナルガ如シ。之ニ就キ一考スベキハ、若シ專ラ一般的修養ヲ與フルヲ目的トスル特種ノ大學設立セラル、場合ニ於テ、其本科卒業生ニ與フベキ稱號ノ名稱ヲ如何ニ定ムベキヤト云フコトナリ。之ニ就キテハ、得業士、進士、秀才、學藝士等種々ノ名稱ヲ考ヘラレ得ザルニ非ルモ、愚見ニテハ單ニ「學士」トスルコト、恐ラク最モ宜シカラント思ハル、ナリ。専門的職業的教育ヲ授クル大學ノ卒業生ハ、從前ノ例ノ如ク、其ノ専門トスル所ニ從ヒ、「法學士」「醫學士」ナド、稱シ、以テ此ノ單ニ「學士」ト稱スルモノト區別スベシ。若シ、夫レ博士ノ稱號ニ至ツテハ、一般的修養ヲノミ與フル大學ハ宜シク之ヲ授クルコトヲ遠慮スベク。又カ、ル大學ニ設置スル研究科ハ、其ノ年限ヲ二箇年以內トスルコト適當ナルベシ。

第十 結

論

假リニ新大學令案實行セラル、トシテ其ノ結果ハ如何、一時ノ上ニ就キテイヘバ新舊制度ノ移リ變リノ上ニ有リ勝チナル混雜、不便等モコレアルベシ、學位タル舊博士ト稱號タル新博士トノ併存ノ如キ是レナリ。研究科及研究設備ノ如キハ恐ラクハ始メヨリ完備ヲ期シ難カラシ。其ノ他能ク〳〵注意セザレバ實行上弊害ノ伴フコトモアルベシ、然レドモ大局ヨリ觀察スルニ、其ノ永遠ノ結果ハ良好ナルベシト信ズ。即チ此ノ新大學令ニヨリテ大學ト認定セラル、官公私立ノ學校ハ之ニ由ツテ其ノ地位ヲ高メ、其ノ職員學生等モ一層自重奮勵シ、當初ハナホ不完全ナル點多キヲ免レザルベキモ、漸次改善セラレテ、完備ニ近キモノトナリ、ツマリ我邦ニ於テ完備ニ近キ大學多ク出來上ルコト、ナリテ、高等教育ノ進歩、獨創的研究ノ發達ハ自然コレニヨリ促進セラルベキナリ。

完備ニ近キ大學ノ數ノ多クナルコトハ、予輩ノ大ニ希望スル所ナレドモ、大學ニ收容スベキ學生ノ員數ハ無謀ニ之ヲ増加スベカラズ。此ノ事既ニ前ニ之ヲ論ジタリ從ツテ一々ノ大學ノ學生ノ數ハ、猥リニ多クスベカラザルナリ。此ノ故ニ公私立大學等ハ充分ノ財源ヲ有シ、主トシテ授業料ニ依頼シテ經濟ヲ立ツルノ必要ナカラシコト、誠ニ肝要

ナリ。而シテ其ノ爲ニハ富豪ガ教育ノコトニ充分ノ注意ヲ拂ヒ、諸大學ノ爲メニ進
ンデ基金ヲ寄附スルノ風、今後益々盛ナルニ至ランコトヲ希望セザルヲ得ズ、又中
産以下ノ家ノ子弟中、優秀ナル人物ヲ精選シ、大學教育ヲ受ケシメ、又其ノ中、獨立ノ
研究家タルニ適當ナル資質アル者ハ、大學本科卒業後引續キ研究科ニ入りテ研究
ニ従事セシメ、此ノ如クニシテ各々其ノ志ヲ遂ゲ、國家社會ニ貢獻スルヲ得セシメ
ンガ爲メニ、多ク給費又ハ貸費ノ資金ヲ設定センコト切望ニ堪ヘザルナリ。

修業年限ニ就キテハ、予輩ハ新大學令案ニ四年以上トアルヲ文字通りニ解釋シ
本科豫科ヲ通ジテ四年ヲ最少限トシ、ソレヨリ以上六年又ハ七年ニテモ差支ナシ
ト解セント欲ス。本案ノ立案者又ハ其ノ維持者ノ意向如何ハ予輩之ヲ知ラズト雖
モ、單ニ四年ト限定セズシテ、四年以上トシタル上ハ、カク解スルコト妥當ナリ。又此
ノ如ク四年以上、種々ナル年限ノ大學ヲ設クル自由ヲ與ヘ、經營者ノ主義、理想如何
ニヨリ之ヲ決定スル餘地ヲ存シ、強テ劃一ナルヲ要セズトシタルハ、實ニ本案ノ一
大長所ニシテ、頗ル妙味ノ存スル所ナリトス。或ハカクスレバ不統一ヲ生ジ、實際差
等アル種々ノ大學ヲ同等ニ取扱フトイフコトニナラズヤトノ論モアルベケレド、

此ノ場合最低限度ノ標準、最少限ノ年數ヲ規定スル必要ハアルモ、スベテヲ強イテ同一程度、同一年限タラシメ、又ハ最高限度、最多限ノ年數ヲ故ラニ定メ置ク必要ハ更ニコレナキナリ。

右述ブルガ如クナルヲ以テ本案ヲ實行スル場合、總テノ大學ヲ強イテ本科豫科ヲ通ジテ皆四年トシ、又ハ四年ニ近カラシムルコトハ、毫モ其ノ必要アルコトナシ、否必要ナキノミナラズ、大ニ不可ナリ。

前段大學ノ修業年限ノ條ヲ參看スベシ。

實際ニ於テハ帝國大學ノ如キ

ハ、宜シク従前ノ如ク本科豫科ヲ通ジテ六年若シクハ七年トシ、猥リニ紛更ヲ試ミルコトナキヲ要ス。官立學校ノ或ルモノ、例ヘバ高等師範學校ノ如キモノヲ大學ニ改造スル場合ニハ、宜シク今ヨリモ其ノ程度ヲ高ムベク、從ツテ其ノ修業年限ヲ延長スル必要アルベシ。公私立大學モ充分程度ノ高キモノタラシメント欲セバ、矢張り結局帝國大學ト同様ニ本科三年又ハ四年、豫科三年トスル外ナカラン。最モ主トシテ職業的専門的教育ヲ授クル公私立大學ノ場合ニ於テ、若シ速成主義ヲ採リ、豫科ノ年限ヲ短縮セント欲セバ、二年マデニハスルコトヲ得ベキモ、ソレ以上ハムヅカシカルベク、先ヅ本科三年、豫科二年合セテ五年ヲ以テ最少限トスベシ。然ラバ四

年以上トスルモ、實際四年ニテ宜シキ大學ハ主トシテ一般的修養ヲ與フル特種ノ大學ノミナルベキナリ。

新大學令案ニ於テ、高等學校ノ存置ヲ容認スルヤ否ハ、文面上ニテハ少シク不明ナレドモ、當局者ハ教育調查會ニ於ケル質問ニ答ヘテ、高等學校ハ大學豫科トシテ大學ノ一部分ト見做スト答ヘラレタル由新聞紙上ノ報道ニ據ルナレバ、予輩ハ新案ハ之ヲ容認スルモノト解セント欲ス。

若シ此ノ如ク解スルコトニシテ誤リナクバ、予輩ハ此ノ新案ニ對シテ大體ニ於テ賛成ヲ表セント欲スルモノナリ。但シ新案ハ其ノ意義明瞭ヲ缺ク所アリ、ツレ等ハ更ニ修正ヲ要スルコト、思考ス。

人或ハ云ハン、若シ帝國大學ニシテ修業年限モトノマ、ナラバ、年限短縮ノ目的ハ少シモ達セラレザルニ非ズヤト。然レドモ、此ノ如キ論者ハ總テノ學生ハ必ラズ帝國大學ニノミ入り之ヲ卒業スベキ筈ノモノナルカノ如ク思惟スルモノニシテ單ニ帝國大學ニノミ限局シテ考ヘ、見ル所極メテ狹シトイフベシ。若シ帝國大學以外ニソレヨリ修業年限ノ短キ大學出來ルニ於テハ、早ク卒業センコトヲ欲スルモ

ノハ、ソレ等ノ大學ニ入學スレバ充分ソノ目的ヲ達スル譯ナリ。即チ大學ハ最早最高級ノ大學帝國大學ノ如キモノ、ミニ限ラザルコト、ナリ而シテ此ノ包括的意義ニ於ケル大學ノ修業年限ハ、最モ短キ場合ニ於テハ、四年マデニスルコトヲ得ル譯ナレバ、年限短縮論者ハ主張ハ、理論上容認セラレ、又實際ニ於テモ或ル意義ニ於テ、實現セラルハ、モノト云フベシ。

然レドモ恐ラク世ノ年限短縮論者ハ、單ニコレダケニテハ満足セザルモノナルベシ。彼等ハ年限短縮ガ主義トシテ容認セラレ、廣義ノ大學ノ最少年限ガ短ク規定セラレタルダケニテハ足レリトセズ、更ニ一々ノ大學ノ場合、殊ニ帝國大學ノ場合ニ於テモ、何トカシテ早ク卒業ノ出來ルコトヲ希望スルナルベシ。此ノ希望モ亦故ナシトハ云フベカラズ、予輩モ亦先キニ修業年限ノ條ノ初メニ於テ述べタル如キ理由ニヨリ、若シ高級ナル大學教育ノ目的ヲ達スルコトニ於テ遺憾ナク、シカモ其ノ卒業ノ年齢ヲ早ムルコトヲ得ル方法アラバ、何トカシテ之ヲ試ミタキコト、思フナリ。然レドモ管見ニテハ、其ノ方法ハ帝國大學ノ本科又ハ豫科ノ範圍内ニ於テハ之ヲ見出スコト殆ンド難シ。之ニ反シ、中學校ニ於テハ容易ニ之ヲ見出スコトヲ

得、ベシト信ズ。今日中學校ノ教育ハ五箇年ニテモ成績甚ダ擧ガラザルガ如クナレドモ、コレハ第一ニ年來中等教育ニ就キ劃一主義ヲ採リ、形式ニ拘泥シ、スベテヲ一定ノ標準ニ據ラシメ、科程ノ立テ方、教授ノ方法等ニ就キ種々ノ試ミヲ爲ス自由ヲ充分ニ與ヘズ、第二ニ生徒ヲ長ク子供扱ヒニシ、彼等ヲシテ主トシテ受動的ナラシメ、自カラ奮勵シテ能動的ニ勉強スル樣鼓舞獎勵セザルコト、其ノ他種々ノ原因ヨリシテ年限ノ割合ニ學業進マズ、人物成熟セザルナルベシ。若シ方法ヲ講ゼバ、四箇年ニテモ優ニ今日ノ五箇年中學校以上ノ成績ヲ擧ゲ得ルナラント思ハル、ナリ。而シテ若シ中學校ヲ四箇年トスルトキハ、大學修了迄ニ要スル通計ノ年限ガ一箇年短縮スルノミナラズ、高等商業學校其ノ他諸專門學校ノ場合ニ於テモ卒業年限一箇年ヲ短縮スルコト、ナリ。年限短縮ノ利益ハ獨リ大學ニ入學スルモノハミナラズ、一般ニ高等教育ヲ受クルモノニ及ブベシ。

尤モ空論ニヨリテ遽カニ全然制度ヲ改ムルコトハ輕卒ナルベキヲ以テ予輩ハ今直チニスベテノ中學校ノ年限ヲ悉ク一箇年短縮スベシトハ云ハズ。先ヅ從來ノ五箇年中學校ト相併ビテ別ニ四箇年ノ中學校ヲ試驗的ニ設置スルコトヲ許シ、其

ノ○卒○業○生○ニ○モ○五○箇○年○中○學○校○ノ○卒○業○生○同○樣○高○等○學○校○及○諸○專○門○學○校○ノ○入○學○試○驗○ヲ○受○
ク○ル○コ○ト○ヲ○得○セ○シ○ム○ル○コ○ト○ニ○シ○タ○シ○ト○思○フ○ナ○リ○之○ト○共○ニ○中○等○教○育○ニ○從○事○ス○ル○モ○
ノ○ニ○一○層○多○ク○ノ○自○由○ヲ○與○ヘ○科○目○ノ○配○當○教○授○ノ○方○法○等○ニ○就○キ○種○々○思○ヒ○切○リ○タ○ル○新○
シ○キ○試○ミ○ヲ○爲○ス○機○會○ヲ○與○ヘ○同○時○ニ○中○學○生○徒○ノ○氣○風○ヲ○一○變○ス○ル○ニ○於○テ○ハ○四○箇○年○中○
學○校○ノ○卒○業○生○又○ハ○五○箇○年○中○學○校○ノ○四○學○年○修○了○生○ニ○シ○テ○今○日○ノ○五○箇○年○中○學○校○卒○業○
生○ト○同○等○以○上○ノ○學○力○ア○ル○モ○ノ○ヲ○出○ス○コ○ト○蓋○シ○難○キ○ニ○非○ル○ベ○キ○ナ○リ○予○輩○ハ○中○等○教○
育○ニ○關○シ○現○制○ヲ○可○ト○ス○ル○論○者○ト○雖○モ○カ○、○ル○試○ミ○ヲ○爲○ス○コ○ト○ニ○反○對○ス○ル○理○由○ハ○ナ○
シ○ト○思○考○ス○但シ四箇年中學校ノ場合ニ於テ、其ノ下ニ更ニ二箇年ノ課程ヲ設ケ、通計六箇年トシ未ダ義務教育ヲ終ヘザル
モ、即チ小學校四學年修了者ヲ其ノ最下級ニ入學セシメントノ案ハ、予輩ノ贊同スル能ハザル所ナリ。小學
程度ニ於テハ、國民平等ニ小學校ニ於テ學ブヲ可トス。早ク差別ヲ立テ、階級的感情ヲ養成スルハ甚ダ不可ナリ。而シテカ、ル
コトヲ爲サズトモ、若シ其ノ遺リ方ダニ宜シキヲ得バ、中學校ハ單ニ四箇年間ニ於テ能ク相應ノ成績ヲ舉グルコトヲ得ベキナリ
若シ右ノ如ク四箇年中學校ヲ試驗的ニ設クルコトモ今直チニ行ヒ難シトスレ
バ現制ノ儘ニテ最モ行ヒ易クシカモ年限短縮ハ上ニ相應ニ有效ナル方案ハ高等
學校及諸專門學校ニ入學ヲ許スベキ年齡ヲ今ヨリモ滿一箇年ダケ早クシ中學校
四年修了者ニハ在學中ト雖モ是等諸學校ノ入學試驗ヲ受クルコトヲ許スニ在リ。
カクスルトキハ俊秀ナルモノハ今日ヨリモ一箇年早ク受験合格シテ高等學校等

ニ入ルコトヲ得ベク從ツテ大學又ハ專門學校ヲ一箇年早ク卒業シテ社會ニ出ヅルハ機會アルベキナリ。

以上述ブル所ニ據リテ新大學令案ハ最初ニ云ヘル如ク學制問題ノ一部ヲ解決セントスルモノニシテ其ノ全部ヲ解決スルモノニ非ズ又年限短縮ノ問題ヲ論ズルニ當リテハ大學及其ノ豫科ノミナラズ中學校ニ就キテモ大ニ考慮ヲ要スベキコトハ粗々分明トナレリト信ズ然レドモ一時ニ總テヲ改革スルコトハ難事タリ。若シ全體ニ亘リテ調査ヲ遂ゲ大體ノ方針決スルニ於テハ其ノ方針ニ從ヒ一部分ヅ、改革ヲ實行スルハ寧ロ宜シキニ適ヒタルヲトナラン。新大學令案ハ若シ予輩ガ前段ニ於テ試ミタル解釋ノ如キモノナラバ中學校等ノ改革ニ別段支障ヲ來スベキ性質ノモノニ非ズ故ニ先ヅ問題ヲ二分シ新大學令案ニ由ツテ學制問題中大學ニ關スル部分ヲ解決シ而シテ後更ニ中等教育ノ革新ヲ圖ルハイツ迄モ總テヲ未解決ノ儘ニ委スルニ優ルベキナリ。(完)(以上大正四年十一月十五日稿了)